

# 御前山ビオトープ通信

平成23年5月30日

第32号

発行 : 御前山ダム環境センター  
 編集 : NPO「美しい田園21」 清野  
 メール : [denen21@hb.tp1.jp](mailto:denen21@hb.tp1.jp)  
 ホームページ : <http://w01.tp1.jp/~a071771011/>

## 目次

- 1 御前山ダム「湖底ウォーク」
- 2 ビオトープ顕彰「地域貢献賞」を受賞
- 3 「田んぼの学校」で古代米の田植えを実施

## 【案内図】



## 1 御前山ダム「湖底ウォーク」

4月24日(日)常陸大宮市の主催により、湛水を目前にした御前山ダムの湖底を歩く催しが行われました。残念ながら山桜は前日の強風雨で散ってしまいましたが、晴天に恵まれ100人近い一般市民の参加がありました。冒頭、鈴木県会議員の音頭で「桜の歌」を合唱し和やかな雰囲気ですターしました。

市長は山歩きが好きだとあって、水没地の草花や古い橋、交通標識等に興味を持ち、皆と一緒に写真を撮たくさん撮っていました。

御前山ダム環境センターの長山会長から、歩きながら草花や山桜の説明がありました。晴天に恵まれ一時間半ほどの道のりでしたが気持ちよい汗をかきました。

最後に事業所からダムの説明があり、監査廊の中を案内してもらいました。参加者はほとんどが監査廊に入るのは初めての経験で、「へ～ダムの中はこんなにな



湖底ウォーク参加者：4月24日



っているんだ。原発事故や地震のときは、この方が安全そうだな。」などと感心した様子でした。

帰途、市役所から地元の奥久慈米がプレゼントされました。

## 2 ビオトープ顕彰「地域貢献賞」を受賞

日本ビオトープ協会では平成 20 年度よりビオトープの取り組みを一層進め啓蒙する目的から、全国の優秀なビオトープに対して表彰を行っております。

賞を授与される視点としては 1. 優れたビオトープの技術で実施し他の範として認められると共に普及啓蒙をはかる 2. ビオトープの目的と成果が評価される状況にあるもの 3. 目的にあった維持管理が適性になされているもの とし、年度ごとに総会において会長が贈呈し、受賞ビオトープは機関紙、WEB、ニュースレター等に掲載するとともに、環境関連誌はじめ各種メディアに公開されることになります。

今回、御前山ダムが完成し、平成 16 年度から取り組んできた希少植物の移植活動の区切りがついたことから関連資料を提出したところ、4月15日（金）に開かれた顕彰委員会において、「御前山ビオトープ」については地域社会の活性化に資するところが最大の特徴であるとして「地域貢献賞」を受賞することとなりました。5月27日（金）岡山で開催された日本ビオトープ協会の総会とフォーラムにおいて表彰等が行われました。遠方のためには出席はできませんでしたが、賞状が送付されてきました。

## 3 「田んぼの学校」で古代米の田植えを実施

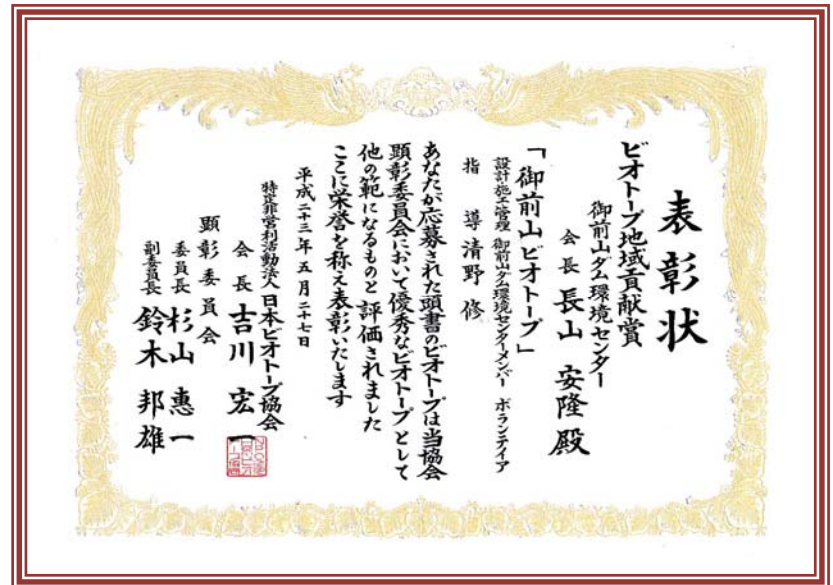
5月17日（火）御前山小学校5年生の子供達により、御前山ビオトープ内の田んぼにおいて古代米の田植えを実施しました。御前山小学校の「総合的な学習の時間」体験学習として実施するものです。当日午前9時、幸い雨も上がり校長先生を始め子供達約30名がバスと徒歩で元気に到着しました。

ほとんどの子供達は田植えが始めてのようで、最初は戸惑っている子もいましたが、桧山集落の皆さんの指導でがんばりました。慣れてくると楽しくなってきた一時間ほどで無事終了しました。

国営事業所から川田所長を始め幹部職員も参加し、



田んぼの学校の授業風景



国営事業所の川田所長も腕まくり

腕まくりして子供達と一緒に田植をしました。

その後に「田んぼの学校」の授業として「田んぼの仕組みとお米の話」「山桜の話」などの講義を聞きました。

昼食に昨年収穫したビオトープ米のオニギリを食べ、皆楽しそうに帰っていきました。